

兵庫県
多可町

歴史街道

八千代区版

あまんじやこの
歴史街道
ぶらつとある記

神崎郡
神河町

笠形山
939.4m

- ・旧安海寺
- ⑤稚児岩
- ⑥六本地藏

滝野カントリー倶楽部

③淨善法師の墓
ハイチャーバークかさがた

A) 征夷大將軍
坂上田村麻呂

143

- ①鹿子神社
- ②武者行列

B) 仏教伝来と惠便

マイスター工房八千代
⑦中村貴船神社
④安海寺

⑧化け椿

⑦横屋大歳神社
りょんりょん

桑坂トンネル

野間川

神崎郡
市川町

船坂トンネル

市川南ランプ

なごみの里山都
西谷公園
⑯大石良雄の石垣

加西市

D) 大石良雄
治水事業

⑪ぽっぽこねんじゃ
⑭楊柳寺

大和川

⑯下三原貴船神社

369

34

「あまんじやこ」とは

『あまんじやこ』とは、「播磨國風土記」にでてくる大男。空が今よりも低かった頃、ひとまたぎで3里歩き天にも届く大男は、腰をかがめなければ歩けなかった。明石のある里から北国へ行く途中、多可町のあたりに来たとき急に空が高くなり背伸びをすることができた。喜んだ『あまんじやこ』は「ここは空が高い、たかじゅ、たかじゅ。」と叫んだ。それが『多可郡』の語源となったといわれている。

ほかにも塔の石や巨大架け橋、奥中の長石などいろいろな伝説がこの多可町に残っている。

多可町・多可町観光交流協会 TEL:0795-32-4779
多可ふれあいボランティアガイド TEL:0795-32-0685

JJA加美

寺内

加美区西脇

安楽田

高岸

北播磨
余暇村公園

鍛冶屋

奥中

多可町役場

中央公民館前

茂利

安坂

坂本

糀屋

天神トンネル

翠明湖

多可町図書館

24

林泉荘

竹谷山公園

エーテルささゆり
ガルテン八千代
仕出原

エアーベン八千代

⑬松下嘉平供養碑

⑩光童寺山城跡
八千代地域局
敬老の日提唱の碑

* 田尻川野合戦

⑨野間山城跡

⑪極楽寺

⑫中野間貴船神社

中野間 野口

保木

保木南

西脇市

明楽寺町

24

明楽寺

滝野・社伊勢一社

水尾橋

姫イターチェンジ

0 500 1000

A) 征夷大将軍・坂上田村麻呂遠征の足跡

①鹿子神社（かのこじんじゃ）

＜祭神＞少彦名命（すくなひこのみこと）、木花咲耶姫命（このはなのさくやひめのみこと）

今のは江戸時代末期の建立と推定されています。同町加美区にある荒田神社（播磨国二宮）と祭神を同じくし、全体的に豪華で変化に富んだ建築は、優美かつ重厚感をたたえています。

また、『大石内蔵助離別図絵馬』『忠臣蔵芝居図絵馬』23面など全部で31面の絵馬が掲げてあります。

毎年10月の秋祭りには、この神社から『武者行列』が行われます。

②武者行列（むしゃぎょうれつ）

延暦年間（782～806年）のこと、征夷大将軍・坂上田村麻呂は祈願するがあつて奈良の都から同町加美区の荒田神社にやってきましたと伝えられています。この時、田村麻呂はまず大屋村に入り、供人7人（『兵庫県神社誌』は道案内の村人6人とする）を連れ、荒田神社に参詣しました。この故事に因（ちな）んで、荒田神社の秋祭りに、大屋から鎧（よろい）武者一人と足軽姿6人の、武者行列が行われるようになりました。現在では、大屋での武者行列だけが鹿子神社の神事となって行われています。

③淨善法師の墓（じょうぜんほうしのはか）

その昔、淨慶（じょうけい）・淨善の兄弟が親を伴って但馬竹田より、越知谷、松井庄を経て大屋中の谷の奥地へ移住してきました。

兄の淨慶は、耕地を拓き、道路・水路をつくるなど郷土の開発振興に尽力したと言われています。

また、弟の淨善は、温厚仏心厚く、人の道、信仰の理を説き、病める者には薬を与えたと言われています。

今でも、淨善法師のお墓には、病で困っている人のお参りが絶えず、線香炉の中の灰を患部に塗ると治るといわれています。

C) 戦国 赤松=在田（有田）一族の興亡と極楽寺の秘宝

⑨野間山城（のまやまじろ）

南北朝時代から戦国時代の終わり頃までの約220年間に使われた山城です。攻めにくく、守りやすい急な山の上に築かれた土造りの城であることから、軍事的防御を目的として築かれた『詰の城』でした。

赤松円心の孫にあたる赤松肥前守朝則（あかもひぜんのかみともり）が、南北朝時代の後半に現在の加西市北部にあった在田庄に代官職を得て移り住み、在田（有田）の姓を名のりました。

現在の城跡は、7代目当主在田筑前守村長（ありたちくぜんのかみむらなが）の時に整備されたものです。鶴が両翼を広げたような構えから、別名『鶴琳城（かくりんじょう）』とも呼ばれていました。

戦術における『鶴翼の陣』は山城として理想的な配置とされ、当時の貴族の書状に『名城にありける在田の城』と評されています。

⑩光竜寺山城（こうりょうじやまじろ）

7代目当主村長が、野間山城の整備とともに新しく築いた山城です。

野間山城では、野間全体を見渡すことができないことや、曲輪（平地）が狭いことから、支配拠点として条件を満たしている光竜寺山に光竜寺山城をつくったと考えられています。野間山城の『詰の城』に対して、政治的・経済的権威を示すために造らせた『見せるための居城』でした。

やがて急速に勢力を拡大してきた別所氏が東播磨を制圧してくるようになり、一説では、永禄9年（1563）*田尻川野で、在田氏と別所氏の合戦が行われたとも伝えられています。

⑪極楽寺（ごくらくじ）

伊勢和山と号し天台宗に属します。

同寺は、白雉2年（651）法道仙人により竹谷山に創建された山岳寺院が基であると伝えられています。南北朝の動乱期には、東播磨の拠点の一つとして野間山城も近くに築かれました。

同寺所有の『絹本着色六道絵（けんほんちやくしょくろくどうえ）』は、在田少納言光重（ありたしょなごみつしげ）が、京の北方御門主の姫君を賜ったときに宝物として所持するに至ったと伝えられており、国指定の重要文化財です。『六道』とは人々の善悪の行いによって死後に行く場所（天・人・阿修羅・畜生・餓鬼・地獄）のことで、三幅からなる同絵には、上辺に十王を描き、下辺に地獄を中心とした六道の諸相が描かれています。さらに目連救母説話にみられるいくつかの場面を描いており、その構成は他に類のないものです。

こうした多彩な内容の表現や描写は大和絵風色彩の強いもので、その形式からみて14世紀はじめ（鎌倉時代）に製作されたと考えられています。

この他にも、同寺には当麻曼荼羅図（たいままだらう）、両界曼荼羅図（りょうかいまだらう）などの絵画があります。

⑫中野間貴船神社の流鏑馬（やぶさめ）神事

現在は、形式的な行事でしか残されていませんが、元来は厳粛でしっかりとした形式であったと考えられます。

野間に移る以前の在田氏は、加西市上野町の石部神社（いしばじんじゃ）で『較馬（くらべうま）』を奉納したようで、在田氏と馬との関係は深く、6代当主の在田式部少輔祐忠（ありたしきぶしょうゆうすけただ）は、城下でも『馬の上手』として有名であったそうです。

当時、馬を多用することは、経済的な裏付けが必要であり、北播磨を支配していた在田氏ならではの神事と考えられています。

⑬松下嘉平供養碑（まつしたかへいくよひ）

松下嘉平は、豊臣秀吉の成功のきっかけを作った人です。

秀吉は日吉丸と言われていた時代、今川義元の家臣・松下家に奉公していました。この頃は、まだ身分制がうるさく、日吉丸は冷たい目で見られていきましたが、嘉平の父は一生懸命に仕えた日吉丸をかばっていました。

その後、秀吉は織田信長に、嘉平は徳川家康に仕えました。

1584年、秀吉と家康は小牧長久手で合戦となり、この戦いの和睦の際、秀吉と嘉平は再会しました。その後、嘉平は秀吉の家臣となり、山崎の合戦後、丹波3千石の領地を与えられました。

八千代区中野間に嘉平の墓があるのは、同地がこの3千石の内に含まれていたためとも、当時の在田氏の家老であったためとも考えられています。

B) 播磨から飛鳥へ 仏教伝来と恵便（弁）・苦難の道

④安海寺（あんかいじ）

高野山真言宗に属します。

白雉年間（650～654年）法道仙人の開基で行基菩薩によって堂塔が建立されたと伝えられています。

同寺には、木造恵便坐像（もくぞうえんざぞう）が安置されています。

恵便是『日本書記』敏達天皇13年（584）の条に見える高麗（こま）の還俗僧で、仏教の師として慧聰（えそう）と共に、蘇我馬子と聖徳太子によって都へ招かれ、伝来期の仏教を支えたとされる人物です。

しかし、崇仏、排仏の確執のなかで播磨に流され、旧安海寺の地に幽閉されたと伝えられています。全体の作風からして平安時代の作と思われます。

⑤稚児岩（ちごいわ）と⑥六本地藏（ろっぽんじぞう）

聖徳太子等の仏教の師・恵便是排仏派の物部守屋に幽閉され、大屋地区の山中にある稚児岩（岩窟）に閉じこめられたという説が残っています。

なお、稚児岩の近くの道沿いに小さな地蔵堂があります。ここには高さ40cm足らずの石に彫られた立像地蔵が祀られており『子授け地蔵』として御利益があると言われています。

⑦中村貴船神社（なかむらきふねじんじゃ）・横屋大歳神社（よこやおおとしじんじゃ）と『りょんりょん』

毎年10月に行われる秋祭りには、『りょんりょん』『かぐら舞』とよばれる獅子舞や、連ねた木札を鳴らしたり、布張りの太鼓を奏したりする『ケイゲイ』と呼ばれる祭礼芸能が行われます。『りょんりょん』は赤い天狗の面をかぶった龍王のこと、拝殿の前の地面に鉢（ほこ）で3本の線を引いた後、四方八方に飛び交います。

⑧化け椿（ばけつばき）

幹周約2m、高さ約10m推定樹齢約500年の県内最大のヤブツバキで、兵庫県郷土記念物に指定されています。

この椿は、昔から時季外に開花することがあります。根元に南北朝時代の合戦の在田氏の落武者を祀ったという五輪塔や石碑があり、夜にこの椿の前を通ると、椿が化けて出てくると言われたことからこののような名前で呼ばれるようになったと伝えられています。

D) 密教道場 楊柳寺と赤穂藩飛地 大石良雄の治水事業

⑯楊柳寺（ようりゅうじ）

山号を柳山、天台宗に属します。

白雉年間、法道仙人の開基とされる古刹（こさつ）で、法道仙人が千手觀音の靈告により、山麓の柳の大木に自ら觀音菩薩を刻み伽藍を造立し、その尊像を安置したという故事が残されています。

人々の帰依も厚く、七堂伽藍が建ち並ぶ一大靈刹でしたが、天正年間、野間城落城の際に消失しました。

この後、一部再建され、現在の本堂・奥の院が残っています。

同寺は、県指定文化財となっている平安時代の木造十一面觀音立像（もくぞうじゅういちめんかんのんりゅうぞう）三体・木造兜跋毘沙門天立像（もくぞうとばつびしゃもんてんりゅうぞう）・木造毘沙門天立像（もくぞうびしゃもんてんりゅうぞう）・木造千手觀音立像（もくぞうせんじゅかんのんりゅうぞう）六体等を今に伝えています。

なお、この地は、徳川家の天領であったため徳川家光の寄進状が残っています。

⑯大石良雄（緒）の石垣（おおいしよしおのいしがき）

八千代区大和地域は、元禄時代、赤穂藩の飛地でした。当時、赤穂藩では同地域の土地改良を行いました。工事は、まず水抜きトンネルを掘り、北側の岩盤を削り平らにして越水（うてみ）とし、その保護として石垣を築いたとされ今に残っています。この時、大石良雄は加西市の久学寺を宿として工事視察に訪れました。完成間近になり集中豪雨にあって堤全体が決壊し下流の家や橋を押し流しました。この事故を検分した大石良雄は工事の無理に気付き、再築はせず中止したといわれています。

その後、赤穂藩が取り潰しなった後、同地域は徳川家の天領となりました。

⑯下三原貴船神社（しもみはらきふねじんじゃ）と雨散散（うばらばら）

元旦の朝、『雨散散』と呼ばれる奇妙な行事を行います。この由来については定かではありませんが、一説では特に旱魃（かんばつ）で非常に苦しかった江戸時代末期に、村人が一同に同神社に参拝し、慈雨をもたらし五穀豊穣を祈願したことがはじまりであると伝えられています。

当日、村人は各自神前に用意された「シキミ」の小枝に藤のツルで作った鎖状の輪（3輪）と半紙に包んだ新米をくくりつけます。そして、シキミの枝を持った村人達は神前に整列し、当番の神主が嚴かに祝詞を読みあげます。

その後、当番の神主が、お神酒盃に入れたお神酒を神前から氏子の頭上に降りかけ、村人達は一斉に『う・ばらばら』『う・ばらばら』と唱えます。

このお神酒の滴がシキミに沢山着いた方が良いと言われており、村人達は降りかけられるお神酒に向かってシキミの枝を上下させます。

⑯ぼっぽこねんじや

柳山寺愛宕神社（りゅうさんじあたごじんじゃ）の伝統行事である『火の祈願祭』（毎年8月24日頃）は、ぼっぽこねんじやの日の呼び名で親しまれています。

夕方、松明を掲げた地元の子どもたちが、鉦と太鼓で囃（はや）しながら、大声で唱えるのが「ぼっぽこねんじや、ほうねんじや」という言葉。

御神火を仏壇や神様に供えると家内安全、無病息災、豊作などがかなえられると言われているため、松明の火を分けてもらおうと、沿道には村人達がロウソクを持って、あちこちで行列を待ちます。